

2006年度（後期） 学生による授業評価アンケート調査
授業アンケート実施報告書

所属部局	人文学部		氏 名	櫻井良治			
講義番号	1820D031		担当科目名	財政学			
開講曜日	月 曜日	7・8	時限	専門科目			
授業回数	14	回	休講回数	0	回	補講回数	0 回
受講者数	65	人	成績評価対象者数	61	人	授業放棄者数	人
<p>成績評価に際し注意した事項（財政学Ⅰ 4年生） ※財政学（3年生対象）は、通年科目。 小テストを主体として、6回ほど実施した出欠を加味して、総合評価した。最終試験は、4種類の論述筆記問題の中から、学生に自由に選んでもらい、自由度を高めた。</p>							
<p>アンケート自由記述の回答と対策</p> <p>これまでは、授業と無関係な話が多いという指摘が多く、最も気になる点であった。今回は、その指摘が、激減した。今後とも、授業のテーマと明確に区別して話すなど、慎重に対処したい。授業の合間にブレイクの時間を設けて、そこで話すなど、気を付けたい。これは、今後とも最重点課題である。</p> <p>今回特に注意した点は、授業の進め方をテキストの項目立てにしばられずに、学生の理解を促進するように、臨機応変に設定した点である。さらに、黒板の記述を、文字の羅列を避けて、ビジュアルに改善した点である。</p> <p>例えば、所得再分配の3つの形態について、様々な図を描いて説明した。具体的には、（1）貧富の所得格差、（2）世代間格差、（3）地域間格差、の3種類である。</p> <p>小テストについては、学生に考えさせることに主眼を置いた。解答が与えられていない授業で示された課題について、問うた。以下の3種類の図説について、様々な形態を黒板で示して、学生に自分が支持する図表を選んで、考えさせた。</p> <p>黒板の文字については、しばしば見にくいと指摘されるが、今回は減っている。その理由は、15分間早めに授業の準備をして、学生のいない授業開始直前の休憩中に、黒板への記述をした。このように黒板の記述をきれいにするように時間をかけて配慮したことは、評価されているようである。</p> <p>おおむね学生は、黒板から離れた席に座って、黒板の見えない位置にすわって、黒板が見えないと指摘することが多い。今回は、学生を前の席に座るように誘導したが、それでもなかなかうまくいかない。</p> <p>学生に質問を聞いても、問う者はいつも皆無である。勉学内容に興味を持っているようには見えない。それでもこちらは仕事なので、興味を喚起するように勤める以外にない。</p> <p>今後は、授業に興味のある熱心な学生に受講を限定するなど、シラバスで明確に断っておく方が、後の不評を少なくできると思われる。同時に、質問者に高得点を与えるなどのインセンティブを与えることを考慮すべきである。また、単位を与える際の評価を厳しくすることが、ましい。</p> <p>以上のような教育改善を踏まえて授業を実施してきたので、年々、大きなクレームは減ってきている。また、設定された綱目について問う規定の評価水準に就いては、学生の評価は厳しいが、その理由の一端は、当該科目の難易度が高いことによる。今後とも、より分りやすく教えることに勤めたい。授業をビジュアル化することによって、分りやすさは格段に向上するものと考えている。今後とも、授業改善に向けて、真剣に努力したい。</p>							
成績評価の内訳	S 21% 90~100	A 30% 優80~89	B 20 % 良70 ~79	C 15% 可60~ 69	D 6 % 不可60以下	E 0 % 再試験あり	X 8 % 保留